

## ①阿僧遺跡（清水区由比阿僧）

### はじめに

阿僧遺跡は、標高50m前後の丘陵上にあります。昭和8年（1933）に発見され、昭和63年、平成8年に発掘調査が行われました。その結果、住居跡などの建物跡、土器・石器がみつかり、縄文時代中期（約5,000年前）の集落跡であることわかつています。

### 今回の発掘調査によりわかつたこと

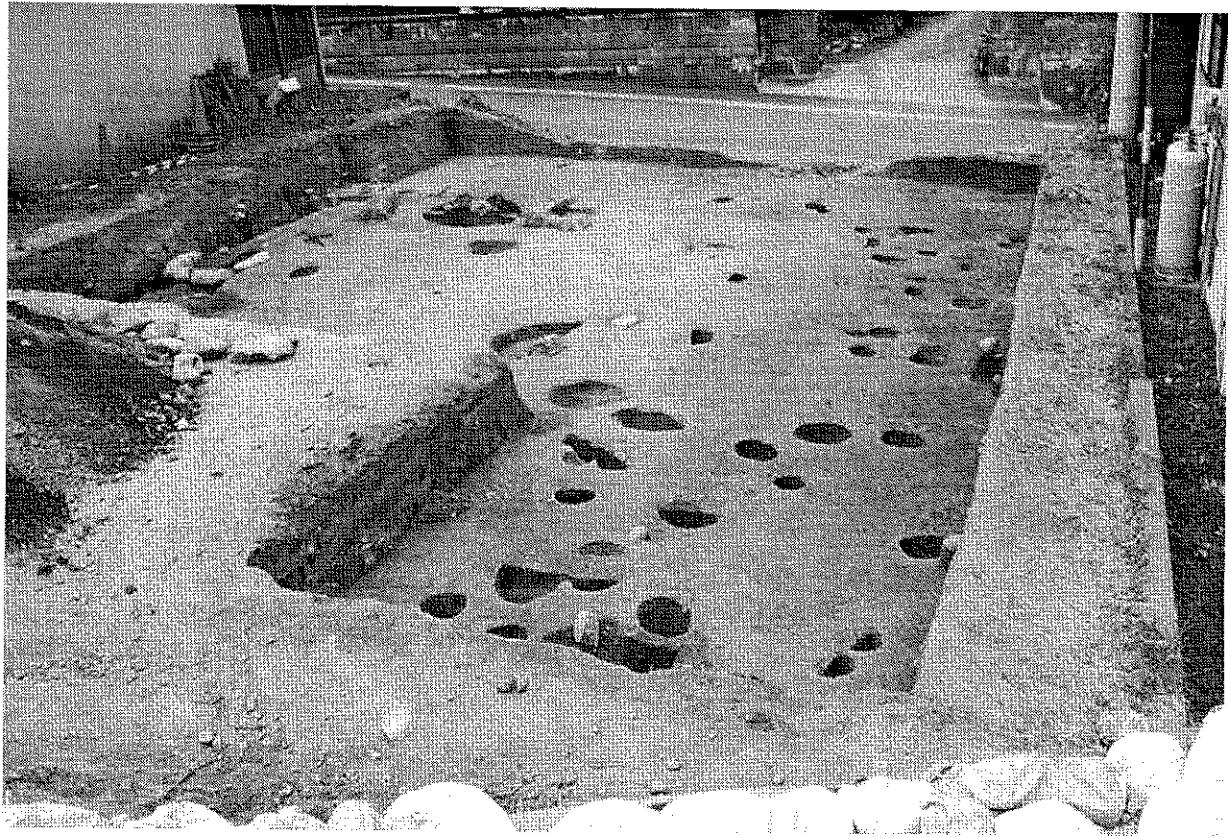
今回報告する2カ所（その1調査、その2調査）の調査では、柱の穴（小穴）や埋め甕、縄文時代中期の土器や、石の鏃や木の実などをすりつぶすための磨り石と石皿などの石器が見つかりました。今回の調査箇所は、遺跡の南端で行われ、まだ遺構が続くため、遺跡の範囲がさらに南へ広がっていることがわかつりました。

### 阿僧遺跡発掘調査 その1

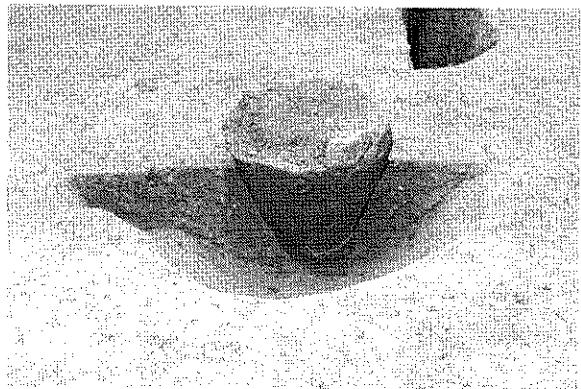


全景

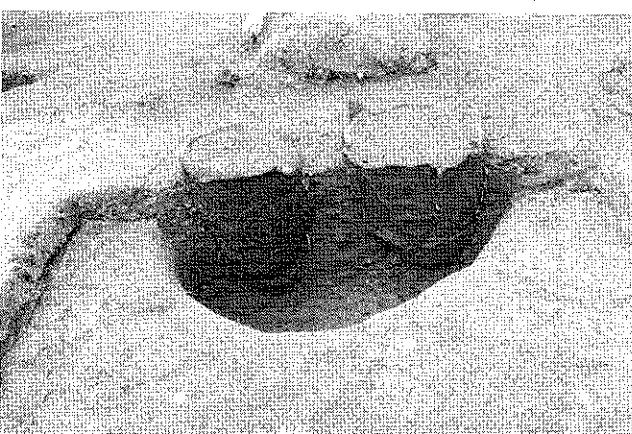
## 阿僧遺跡発掘調査 その2



全景



埋め甕 1



埋め甕 3、4

### その1調査

調査期間 平成26年5月28日から6月3日まで

調査面積 約15m<sup>2</sup>

### その2調査

調査期間 平成26年9月9日から平成26年10月7日まで

調査面積 約100m<sup>2</sup>

## ②一丁田遺跡（清水区庵原町）

### はじめに

一丁田遺跡は、清水平野北東部の庵原川の扇状地にあります。国道1号バイパスと新東名高速道路を結ぶ道路建設工事にともない、平成20年（2008）に道路予定地を試掘したところ、水田跡や木製品が見つかり、弥生時代～近世にかけての遺跡であることがわかりました。

これまでの数回にわたる発掘調査では、古墳時代前期、平安時代の水田跡が見つかりました。たびたび洪水に見舞われながらも継続的に水田が営まれていた様子がわかつています。また弥生時代中期及び後期の土器も見つかっており、古墳時代以前にも人々の生活が営まれていたことがわかつています。

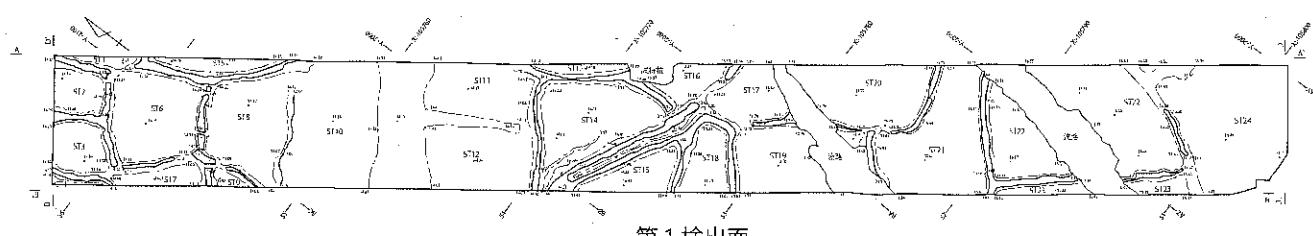
### 今回の発掘調査によりわかつたこと

今回の調査では、古墳時代前期の水田、平安時代の水田が見つかり、それらにともなつて、碗や壺などの土器や大足（田んぼに草などを肥料として土中に踏み込むための農具）や停泥（鍬につける田んぼのドロはねよけの板）などの木製品が見つかりました。

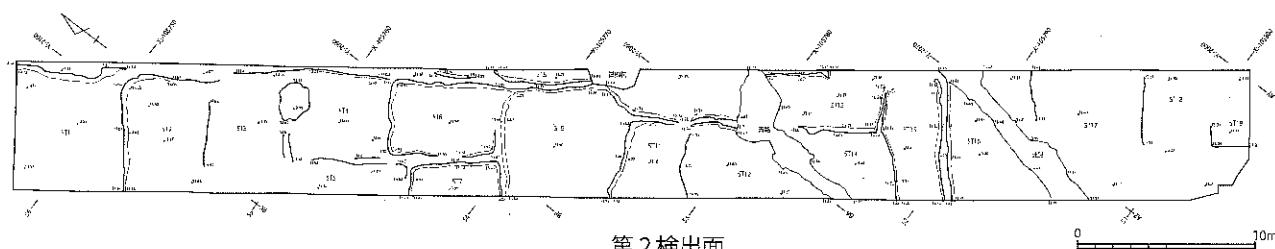
調査期間 平成26年7月1日から平成26年12月6日まで

調査面積 約1040m<sup>2</sup>

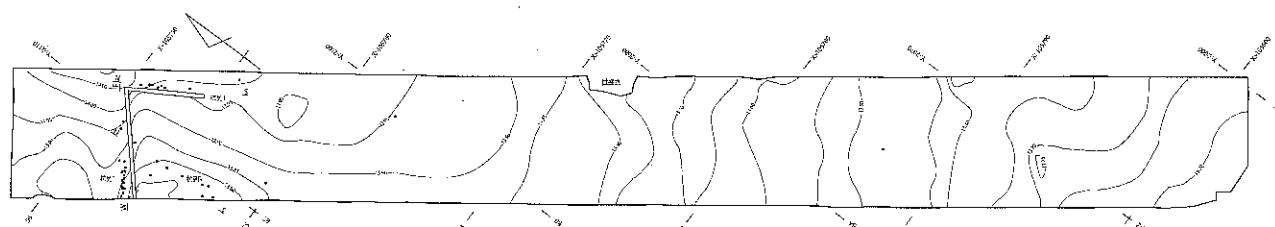




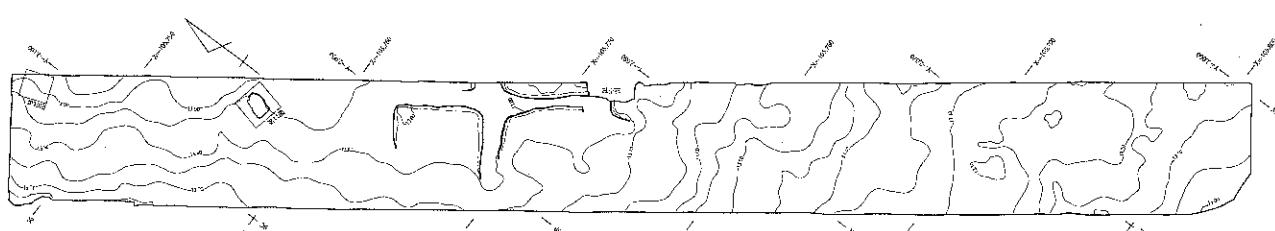
第1検出面



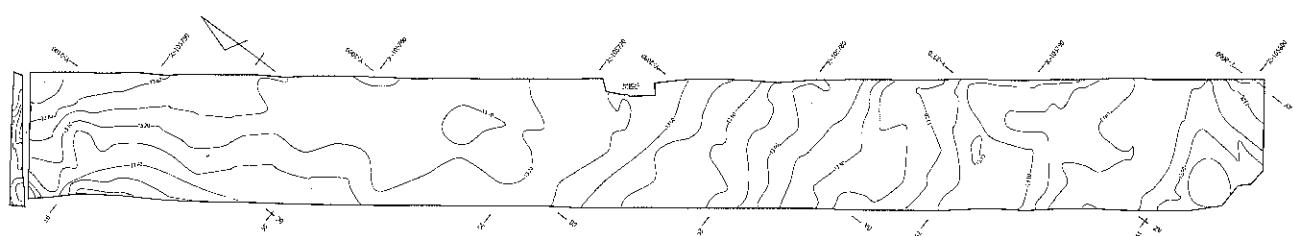
第2検出面



第3検出面



第4検出面



第5検出面

判別：● 穴  
○ 地表付近の測定点

0 10m

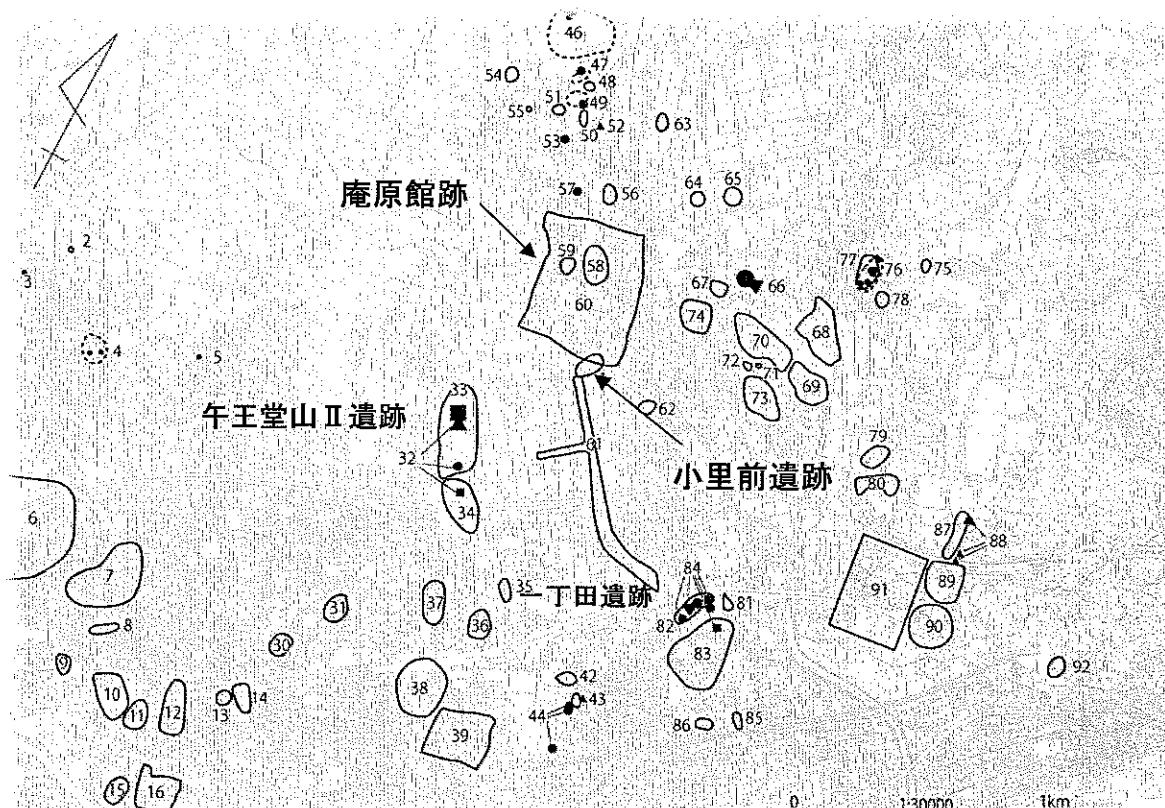


おさとまえいせき いはらやかたあと  
**③小里前遺跡・庵原館跡** (清水区庵原町)

調査期間 平成26年7月1日から平成26年11月28日まで

調査面積 1,071m<sup>2</sup>

●遺跡の場所と周辺の遺跡



●今回の発掘調査によりわかったこと

※平安時代から中世にかけての小里前遺跡・庵原館跡（第1・第2調査面）

- ①畑の畝間の溝とみられる、並行した細い溝状遺構が発見された。
- ②井戸が2基発見された。一つは石積みの井戸で中世以降のものと考えられる。もう一つは、木組みの井戸で、内部から出土した遺物から13世紀代のものと判明した。
- ③第2調査面で、掘立柱建物跡と、礎石建物跡が発見された。建物周辺には焼土や炭化物が広がっていたことから、これらの建物は火災に遭っている可能性がある。周辺から出土した土器から、9世紀後半から10世紀代の建物と推定される。

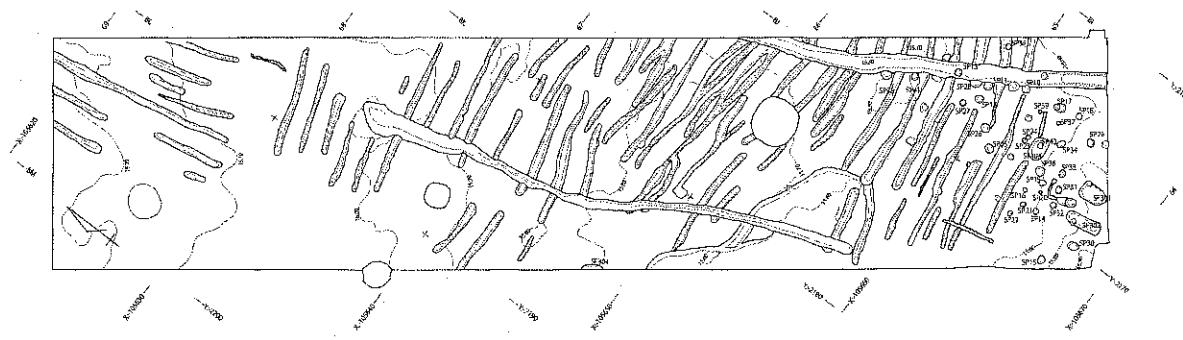
※奈良時代から平安時代にかけての小里前遺跡・庵原館跡（第3・第4調査面）

- ①第3調査面では、第1・第2調査面同様、畑の畝間の溝と考えられる細い溝状遺構が発見された。またその南側には、掘立柱建物を構成する小穴（柱穴）が多数確認された。
- ②第4調査面では、奈良時代の竪穴住居跡が5軒確認され、うち1軒は火を受けて焼けた形跡があった。
- ③墨書き土器や鎧帶金具・刀子・円面硯等、役所の存在を伺わせる遺物が出土した。
- ④静岡市内では初となる、奈良平安時代の製塩土器が出土した。

### ※古墳時代の小里前遺跡・庵原館跡（第4調査面）

①遺構は発見できなかったが、古墳時代前期の土器が大量に出土した。その中には近江地方や近畿地方の「外来系」土器も含まれる。

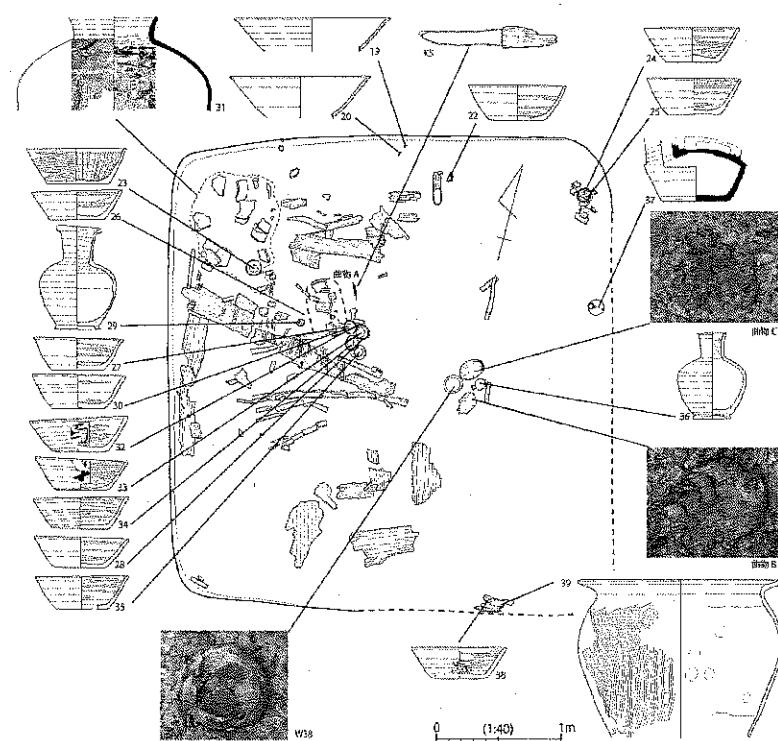
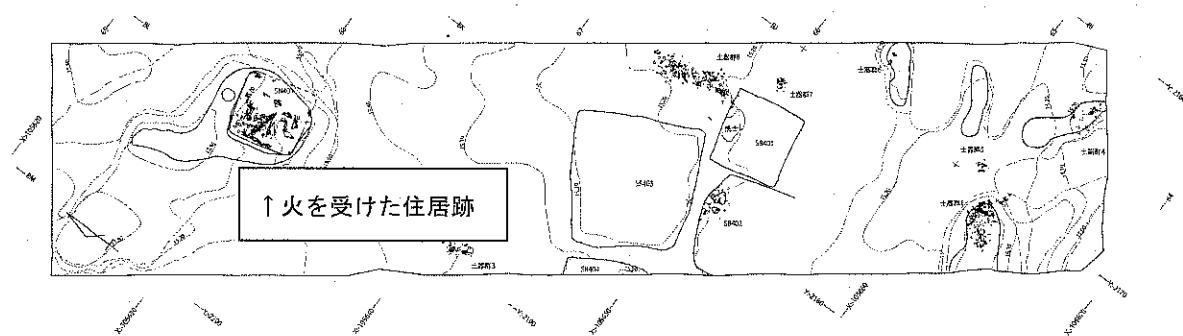
②周辺の丘陵上には、神明山1号墳や午王堂山3号墳、三池平古墳といった、古墳時代前期から中期にかけての、大規模な前方後円墳・前方後方墳が分布していることから、これらを築造した集団（イホハラ氏）の集落との関わりも想定される。



上：第3調査面 平安時代か

下：第4調査面 奈良時代～平安時代

0 (1:200) 10m

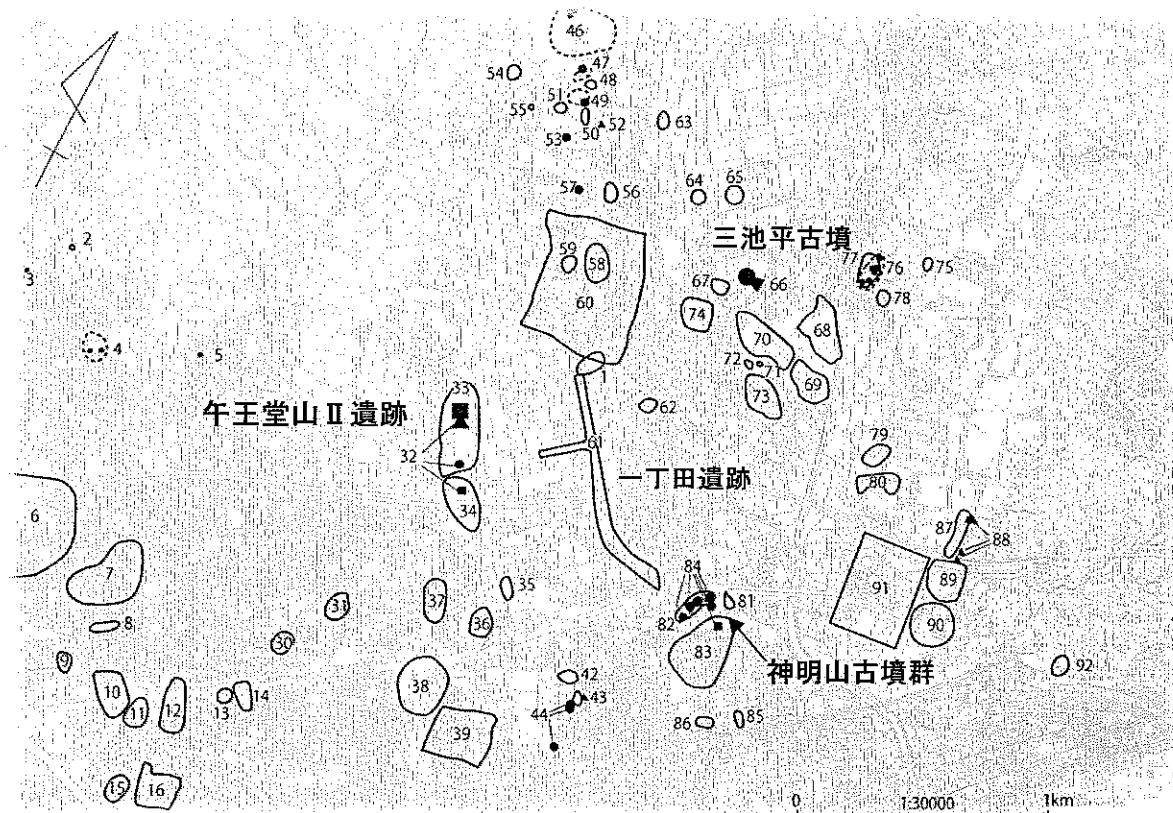


0 (1:40) 1m

ご おうどうやま に いせき  
**④午王堂山Ⅱ遺跡** (清水区庵原町)

調査期間 確認調査 平成26年4月16日から平成26年4月25日まで  
本 調 査 平成26年6月9日から平成26年8月14日まで(追加:11月10日から13日)  
調査面積 1,480m<sup>2</sup> (本発掘調査)

●遺跡の場所と周辺の遺跡



●今回の発掘調査によりわかったこと

①奈良時代の掘立柱建物

須恵器の壊身が出土した

②古墳時代前期の土坑

古式土師器の二重口縁壺が出土した (展示中)

③弥生時代後期の遺構

弥生時代後期前半の溝状遺構

丘陵を東西に横切る方向の幅1.2m~2.3mの断面台形状の溝

弥生時代後期後半から古墳時代前期にかけての竪穴住居跡

この頃が、最も集落が発展している時期と考えられる

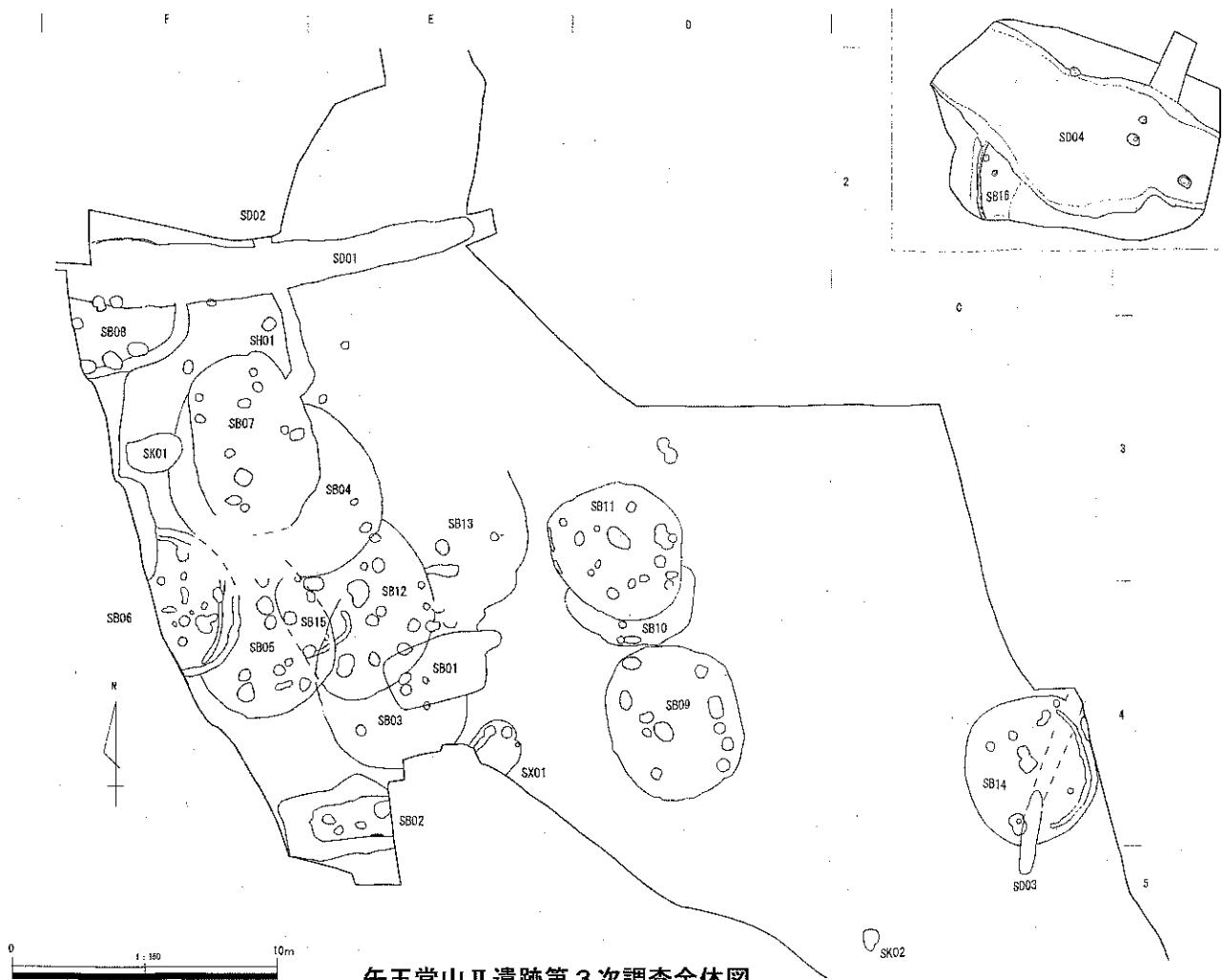
④弥生時代中期の遺構

弥生時代中期後葉の住居跡

住居跡から鳥形土器が出土。静岡市内では5例目で、弥生時代中期のものとしては初の出土

⑤縄文時代の遺物

黒曜石製の打製石鏃が出土した



午王堂山II遺跡第3次調査全体図

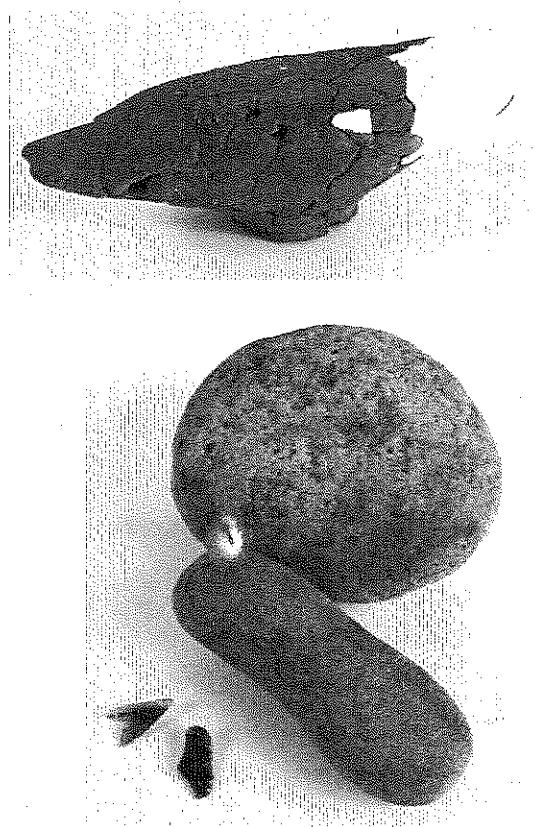
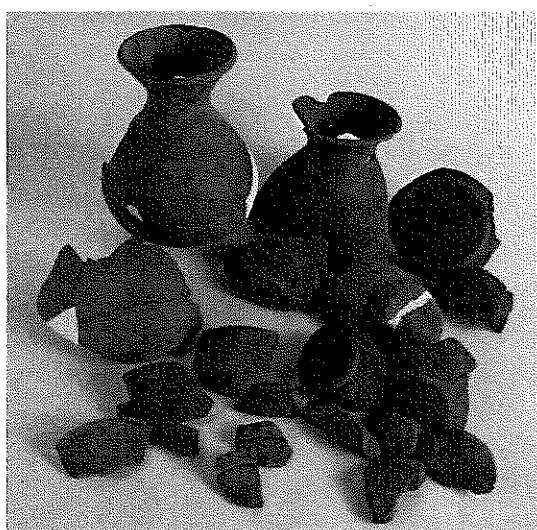


写真 左上：弥生時代後期の溝内出土土器

右上：弥生時代中期の住居内出土の

鳥形土器

右下：黒曜石製の打製石鏃と叩き石

平成 27 年 8 月 2 日(日)

## 平成 27 年度静岡市文化財展関連イベント「発掘調査等報告会」資料

### 県指定史跡 神明山1号墳・4号墳

(平成 26 年 11 月 18 日県史跡指定)

#### 1 古墳の位置

清水平野の北東部を折戸湾に向けて庵原川が南流し、その下流域には庵原低地と呼ばれる沖積平野が形成されている。

庵原低地を取り囲むように北部には庵原丘陵がひかえ、西・南部には午王堂山・秋葉山・神明山といった高さが低目の独立丘陵が点在している。

神明山1号墳・4号墳は、国道1号線バイパスと嶺神明線との交差点北東側に隣接して所在する「神明山」と呼ばれる独立丘陵に築造された古墳である。

神明山の独立丘陵は、周囲との比高差約 13m を測る小高い丘陵で、本来は、北北東から南南西にかけて延びていたが、道路建設や宅地造成などによって姿を変えてしまい、国道1号線バイパスに面した北西側の一部を除いて現地形をほとんどとどめず、神明宮と神明山1号墳・4号墳が存在する中央部のみが残されている状況である。

#### 2 神明山古墳群

神明山1号墳・4号墳が築造された独立丘陵とその周辺では、合計で5基の古墳の存在が確認されており、全体として「神明山古墳群」を構成していた。

【神明山2号墳】 丘陵東南側の低地部に存在した一辺 17m の方墳であった。「築山古墳」の通称をもち、明治時代の初年に鏡や管玉が出土したと伝えられている。

【神明山3号墳】 丘陵南西部の東南側斜面に存在した小規模な円墳であった。1967年(昭和42)に嶺神明線の道路建設に伴って発掘調査が行われ、墳丘はすでに削り取られていたが、残存長約 4.5m、幅約 1.3m の小規模な横穴式石室の存在が確認された。石室内からは、ガラス小玉や鉄鏹などが出土した。石室の形態や出土遺物から、7世紀前半に築造されたと考えられている。

【神明山5号墳】 丘陵北東部に存在したいわゆる前方後方形の周溝墓に類する古墳であった。2005年(平成 17)に宅地造成に伴って発掘調査が行われ、全長が約 22m、方形墳丘部の一辺が約 16m の規模であることや木棺による竪穴式埋葬施設が確認された。副葬品は出土していないが、周溝内から出土した土器から、1号墳に後続して古墳時代前期に築造されたと考えられる。

神明山古墳群では、古墳時代前期前半(3世紀後半)に築造された1号墳を初現とし、後続して5号古墳や2号墳が築造され、古墳時代後期の7世紀前後に4号古墳、7世紀前半に3号墳が築造された。断続的ではあるが、古墳群の形成は、この神明山の丘陵が庵原地域における有力者の墓域として、古墳時代をつうじて強く意識されていたことがうかがえる。

#### 3 神明山1号墳

神明山の独立丘陵の頂上の中心部分を占有して最初に築造され、全長約 69m を測る古墳の規模からみても神明山古墳群の中核をなす古墳である。

調査は、1960年(昭和 35)の静岡大学による測量調査に始まり、その後6回に渡る発掘調

査が静岡大学や旧清水市教育委員会、清水郷土研究会によって行われてきた。とくに1998年(平成10)以降4回に渡って行われた静岡大学による学術調査により、古墳の形態や規模、築造年代に関する重要な内容が明らかとなってきた。

【形態】 前方後円墳で、前方部は初期の前方後円墳に特徴的な撥形をなす。

【周溝】 前方部西側に幅7.2m、後円部側の一部で幅3.1~5.3mの深い周溝の付設が確認されている。

【規模】 墳丘の全長は69m、後円部の直径は40.8m、前方部の長さは31.6m

【出土遺物】 墳丘の外周部から土師器(壺、高坏、甕)、刀子

【築造年代】 古墳時代前期前半、3世紀後半(県内最古の前方後円墳のひとつ)

#### 4 神明山4号墳

1号墳の北東側に隣接して築造され、1965年(昭和40)に民間のクラブハウスの建設に伴って発見され、静岡大学の関係者らによって緊急の発掘調査が行われ、墳丘の大半はすでに失われていたが、横穴式石室を設けた古墳であることが明らかとなり、その後、2000年(平成12)に旧清水市教育委員会によって墳丘の確認調査が行われ、周溝の一部が確認された。

県史跡指定に先立って、1969年(昭和44)に市の指定史跡となった。

【形態】 円墳

【周溝】 墳丘の北西部側の一部で幅約4.2m、深さ約1.2mの周溝の付設が確認されている。

【規模】 墳丘の直径約18m

【埋葬施設】 横穴式石室で全長10.2m、玄室の長さ6.82m、高さ約1.6m、幅が玄室の中央部で広がる(1.82m)同張りの平面形態をなす。

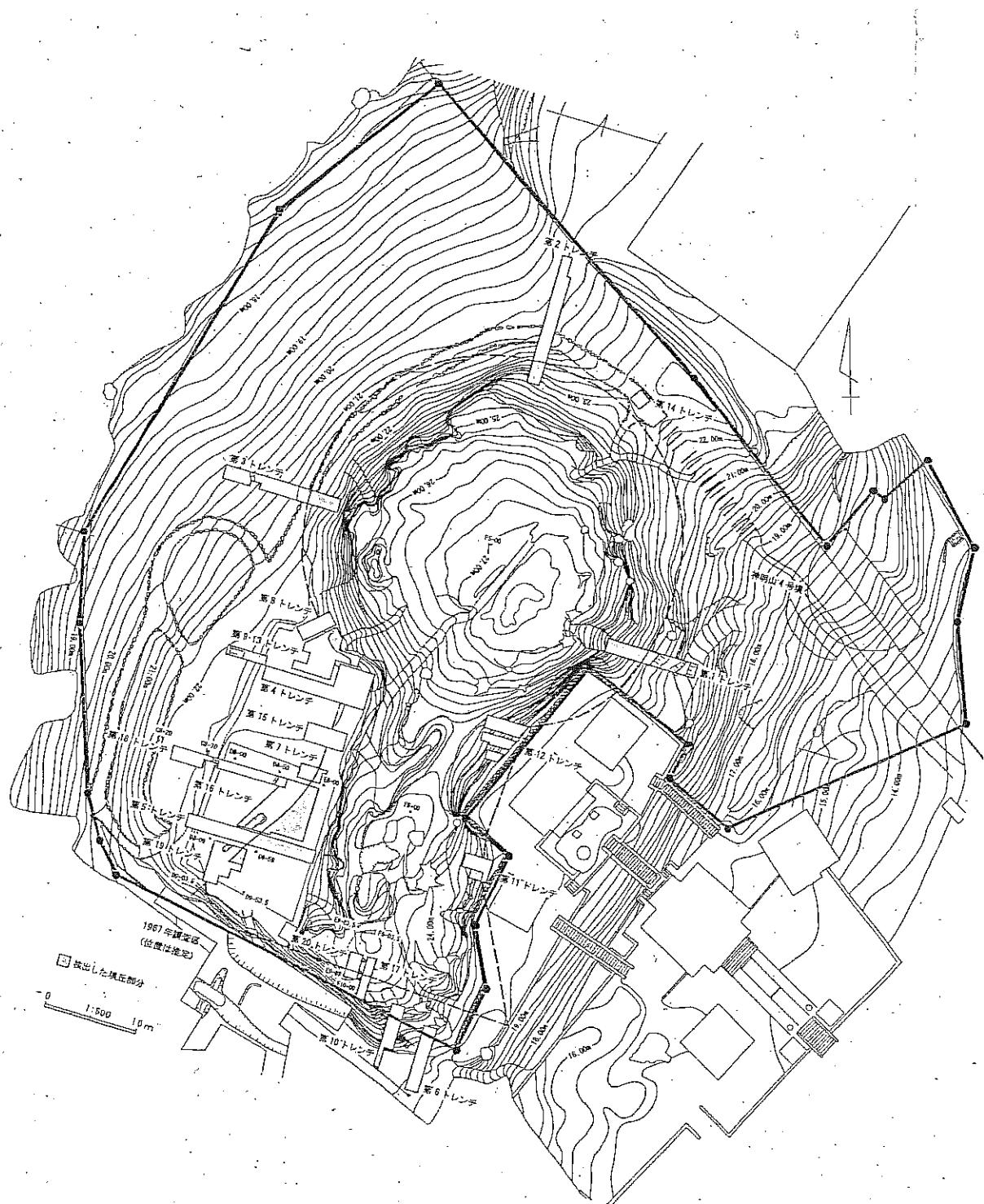
【出土遺物】 主に玄室での出土で、大刀や鉄鎌といった武器類、冑や挂甲小札などの武具類、勾玉、丸玉、ガラス小玉、耳環などの装身具類、轡、雲珠、馬鈴などの馬具類、須恵器(壺、坏、瓶など)など、多彩な遺物が出土した。

【築造年代】 古墳時代後期末、6世紀末~7世紀初頭

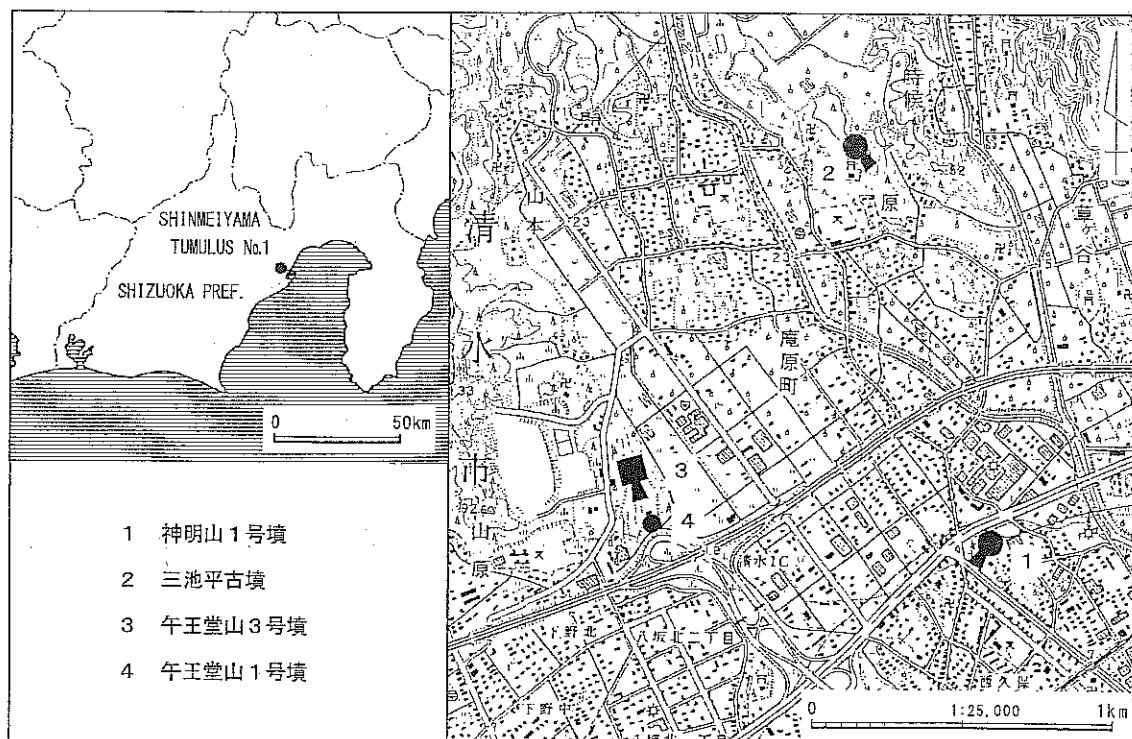
#### 5 神明山1号墳・4号墳が伝える歴史的価値

神明山1号墳は、県内における最古の前方後円墳のひとつであり、庵原川下流域に築造された牛王堂山3号墳や三池平古墳などの一連の有力古墳の先駆けをなし、古墳時代前期の同地域が西駿河において先進的かつ拠点的な地域であったことを示している。また、中央と地方の関係を知るうえでもきわめて重要である。

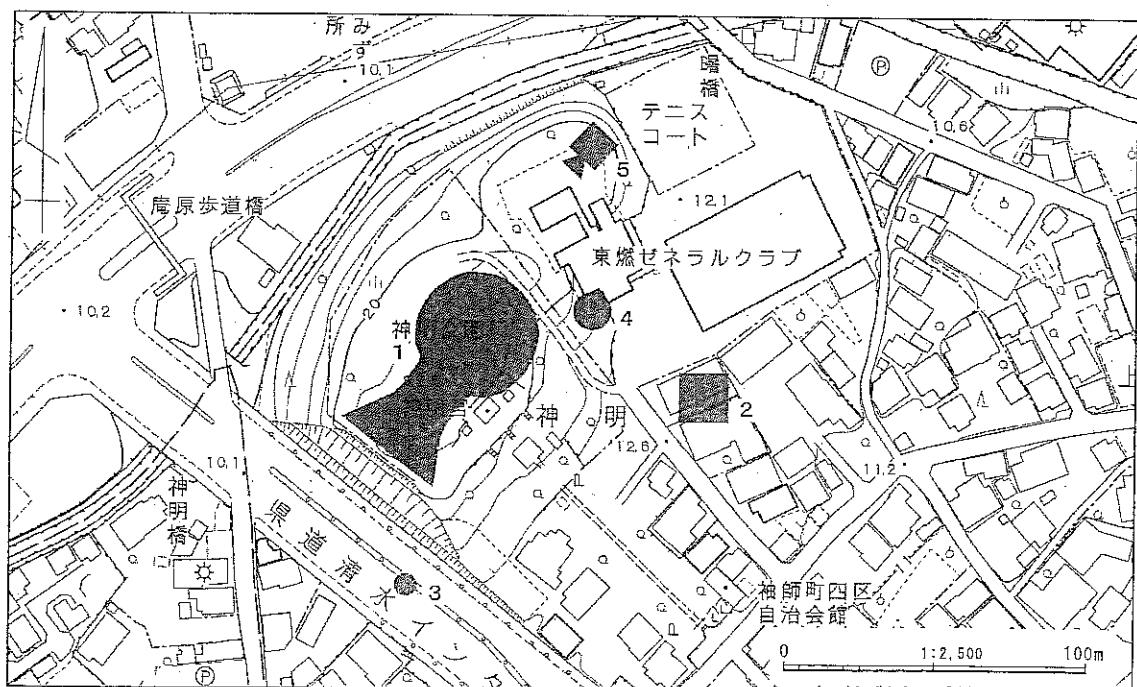
古墳時代後期末の有力古墳である神明山4号墳が、最古の前方円墳に寄り添うように築造されている状況は、同地区における政治勢力の系譜意識をうかがえることができ、古代庵原氏との関連を考える上でも重要である。



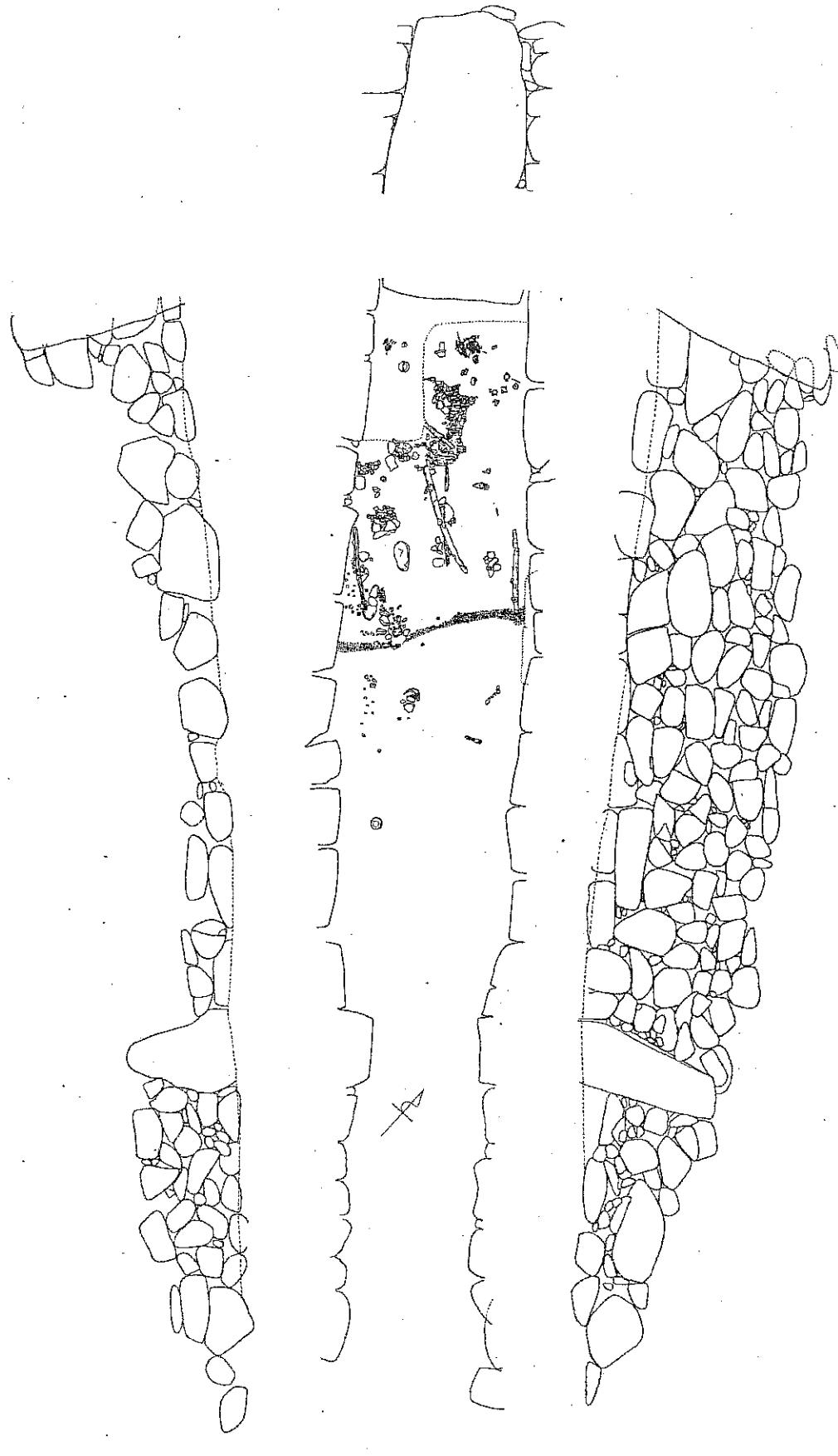
神明山1号墳全体図



神明山1号墳の位置 (S = 1/50,000)

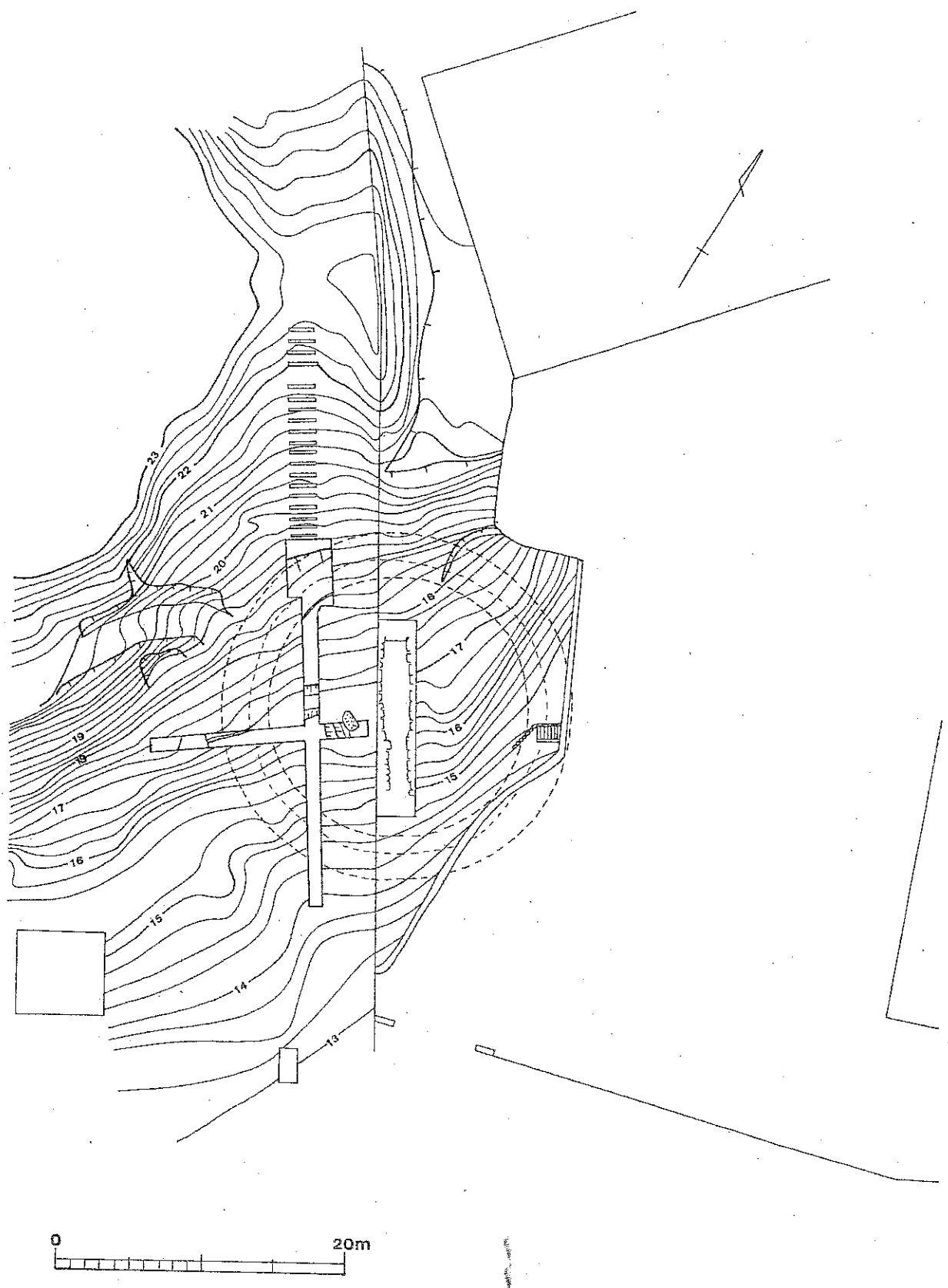


神明山古墳群 (S = 1/2,500)



0 2 m

神明山4号墳 石室実測図



神明山4号墳 現地形と調査区配置図